

大田区立赤松小学校及び仮称大田区北千束二丁目複合施設の基本設計に関する説明会（令和元年7月16日、23日）

令和元年10月

質疑応答概要

大田区

分類	整理番号	ご意見・ご要望等	回答
計画建物について	1	選挙の場合などはどうなるのか。また、地域防災の考え方はどうなるのか。	新しい体育館ができてから既存体育館を壊すことになり、工事期間中も体育館は常に使用可能なので選挙、防災の対応等については従来通りとなります。
	2	防災備蓄倉庫を1階にとお願いしていたが地下1階に配置されているのは何故か。訓練等において階段での運搬は大変である。	B1Fの防災備蓄倉庫は地域の被災者対応用の倉庫です。学校での避難所用・訓練用の倉庫は1階給食室横に配置しています。
	3	学校と一般利用との区画はどうなっているのか。1階の児童出入口が一箇所となっているが、有事の際に問題は無いか（現状3か所）。	地下複合エリアと学校とは入口は完全分離としています。放課後子ども教室と放課後ひろばの往来があるため、階段にて接続しています。その他の複合施設と学校は完全に区画をしています。昇降口の広さについては多数の出入りが可能な広さを確保、かつ2方向避難を考慮した計画としています。
	4	放課後ひろばの入口は階段、エレベーターがあるが、複合施設にはエレベーターがないのは問題ではないのか。	複合施設についてはB1Fのみで完結しており、すべて平場（同一フロア）での移動として計画しています。1階以上は学校機能となります。上階とのつながりはないため、エレベーターの設置予定はありません。
	5	工事期間中の植栽、桜などはどうなるのか。	樹木診断を行っており、移植可能な樹木に対して移植する計画です。
	6	既存の学校校舎は階段3か所だが、改築後は2か所となっている。移動動線が不足するのではないか。	屋内階段の幅は十分に確保しています。また、非常時には内部の階段と、屋外の2か所の階段も利用しながらの避難を想定しています。
工事期間の学校運用について	1	工事の着手は2020年4月のようなが、すぐにグラウンドが使えなくなるのか。	グラウンドは令和2年度当初から使用できなくなります。着工から令和6年度以降から部分利用が可能となります。最終的にグラウンド全体が利用できるのは外構工事完了後となります。
	2	運動会や体育の授業はどうなるのか。	体育授業については、近隣の洗足池公園こども広場を活用するため、既存の利用団体等と調整中です。運動会は大森第六中学校グラウンドを活用する方向で同校と調整中です。
	3	グラウンドは人工芝の検討との話が前回あったが、結論としてはどうなのか。新しい学校で芝採用事例は増えていると思うが、やはり土となるのか	基本的にはグラウンド用の土舗装で考えています。砂埃が舞いにくい重い粒子での舗装を想定しています。
	4	グラウンドが使えない期間は休み時間の外遊びが出来ないということか。	体育館は常に活用可能。既存校舎及び新校舎の屋上（の一部）については、遊び場としての活用を考えています。なお、屋上でのボール遊びは、誤って下に落とした際にグラウンド内の児童・教職員のみならず、近隣住民の方にも被害を及ぼす可能性があるため、本校では禁止しています。
	5	工事中に確保できる運動のスペースはどのくらいの広さなのか。現状でも屋休みのグラウンドは人で一杯になり、昨年は児童が衝突による怪我をしている。	グラウンドの広さについては、最終的には現状よりも広い面積となります。第Ⅰ期工事期間中は、既存体育館と屋上を使って遊べるようにします。また、第Ⅱ期工事期間中は校庭も一部は使用できるので、校庭、新体育館、新校舎屋上広場を使用する予定です。
	6	プールについて使えない期間があるがどのような対応となるのか。	プールについては、令和3年1月から令和5年10月頃が使用停止期間となります。近隣小学校のプールを活用する方向で調整中です。
	7	グラウンドの代替施設であるこども広場とはどの場所を指しているのか。	洗足池のガーデンパーティーに使っている場所（フェンスで囲われたグラウンド）になります（南千束二丁目15番）。
	8	小学生にとって運動はとても重要だと思うので質が落ちないよう最大限の対応をお願いしたい。	運動環境については可能な限り確保するよう検討しています。
	9	運動スペースの不足に対して、具体的にそれを補うカリキュラムや対応方針を教えてください。	できる限り影響を抑える計画をしています。フェンスを高くするなどして、屋上のさらなる活用を図ってまいります。洗足池のこども広場は徒歩10分程のため、授業等での活用を検討しています。
	10	給食はどうなるのか。	給食については、工事期間中も通常どりの運営となります。
に仮設校舎	1	安全性が一番心配。仮設校舎の耐震性能は問題ないか。	仮設校舎の耐震性能は新築同等の性能を確保しています。
	2	仮設校舎の仕様について説明して欲しい。	昔のプレファブのイメージとは異なり、室内の床、壁、天井仕上げ、エアコン等の設備が完備したものととなります。
工事の手順や安全対策について	1	工事中騒音、授業中の防音、特に仮設校舎の防音について具体的に説明して欲しい。	かつての仮設校舎より気密性が向上しています。また、大きな騒音が発生しない重機の選定や、学校行事等を意識しながら学校教育の妨げにならないよう配慮しながら工事を進めてまいります。
	2	工事時間帯について授業を短縮して行うのかなど具体的に説明して欲しい。	工事時間帯については学校と調整をしながら工事を進めてまいります。授業の短縮などは想定しておりません。なお、入学式等の特別な学校行事については配慮してまいります。
	3	工事期間中の安全性確保はどのように考えているか。子どもたちは好奇心を持っているので具体的に工事エリアに近づかないような工夫をどう考えているのか。	仮囲いで工事と学校を完全に仕切り、児童が工事エリアに立ち入れないように計画してまいります。また、工事現場の出入口付近に交通誘導員を配置し、安全確保に努めてまいります。
	4	工事中の騒音はやはり気になる。工事が始まって音の問題が実際発生した場合はどのようなブラスアルファの対応となるか。	騒音問題に発展しないよう設計段階で慎重に検討します。さらに設計で留めず、工事施工業者が決定した後も学校と協議、調整しながら更なる対応に努めてまいります。
	5	工事は平日との事だが、土日祝・夜間も行うのか。	天候不順等による工事の遅れ、鉄道近接工事等による特殊事情が発生した場合は、土、日、祝日も工事を行うことが想定されます。
	6	各工事期間中の遊び場の位置、広さ、屋上の安全対策（フェンスの高さ）などを提示して頂きたい。また、学校との調整がまったく出来ていない印象を受ける。学校側と調整をしてから説明をして欲しい。	工事における不安があることは承知しております。計画段階、工事段階と各ステップで常に学校と調整しながら進めてまいります。
	7	前回の説明から見て、殆ど工期短縮されているとは思えない。	工事期間については、当初の計画時の約8年間から約7年間に工期の短縮を検討しました。引き続き、工事が1日も早く完成できるよう取り組んでまいります。
	8	Ⅰ期とⅡ期の間の状況など仮設校舎のプランや工事途中の状況、一時的に残る校舎などが提示された資料では解らない。	Ⅰ期工事中は仮設校舎に加え、既存体育館や給食室のある既存校舎の一部を活用します。Ⅱ期工事は新校舎と給食室のある既存校舎の一部を活用し、仮設校舎は解体します。この期間はグラウンドの利用が一部可能となります。施設建設終了後、学校のグラウンドの整備工事を行うとともに、新校舎の屋上広場を整備する予定です。
	9	仮設校舎のどこに何年生が入るのか。全部で何クラス分あるのか。学年ごとにまとまっているのかなど説明をして欲しい。	全ての学年の普通教室を仮設校舎に移すことを検討しています。
	10	工事車両のルートについてなどの安全性について説明をして欲しい。	工事に伴う地域にお住まいの方々や、学校に通う児童の安全を確保するため、交通誘導員の適正配置につとめます。安全対策については、学校と十分調整をしながら工事を進めてまいります。
説明会の方法、配布資料、情報共有について	1	保護者宛にもできるだけ具体的な情報発信を常に行って欲しい。	工事期間中の情報提供については、ホームページ、学校だより等において進捗を伝えてまいります。
	2	学校の情報については確定版でもなくていいのでしっかりと提示していただきたい。	工事における設計図書の詳細図などは一部公開できないところがあります。
	3	配られた資料は完成図であるが、在校生は完成校舎に入ることは無いので、何のための説明なのか。知りたいのは工事期間中の状況である。	工事の実施において色々不安があることは承知しています。学校との調整という意味では、工事施工業者との契約後には、より具体的な説明ができるようになります。今後、具体的な工事計画等が決まった段階で順次説明してまいります。
	4	説明会資料は前回から殆ど変わってない。これから学校側の意見を聞いてというが、検討段階から保護者の意見も取り入れるようにすべきではないか。	説明会を通じ、質疑応答でご意見、ご要望を伺っております。一つ一つのご要望を具体的に検討しながら、今後の説明会等を通じ情報提供できるよう努めてまいります。
	5	これから赤松小への入学可能性がある保護者（近隣の保育園や幼稚園に通う方々）にも情報提供を行うなどの配慮はあるのか。	入学予定の保護者に広く周知するよう進めてまいります。
	8	在校生や新入生を含め不安要素が多数残ったままだと思うが、結局このまま工事が始まるのか。	工事を行う上ですべての不安を解消することは困難ですが、説明会等でのご意見を賜りながら、少しでも改善できるよう努めてまいります。
	7	改築を理由とした指定校変更は受け付けていないのか。	指定校変更の理由として改築は認めておりません。
	8	次の説明会は決定されたものが報告されるのか、今回のように意見を募る形なのか？	例えば、工事期間中についても窓口を設け、意見をいただけるような形で工事を進めてまいります。
	9	秋頃にまたこのような質疑応答の場があり意見を聞いていただける猶予があるという理解でいいか。	11月5日（火）19時から、赤松小学校にて説明会を開催します。
	10	実例でいうと学校改築を2～3年で行う事例はある。そういうことも踏まえて説明をして欲しい。	学校改築の事例として、何もない敷地に新校舎を建設するだけであれば、2～3年程度での実施は可能です。しかし今回の工事では狭い敷地内で学校運営をしながらの建替え工事になります。同敷地内で限られた敷地での工事であるのに加え、鉄道近接施工、擁壁更新など複数の要素が重なっている工事となります。他の平坦地での工事と比べて難易度の高い工事で、工事期間も長くなっています。
	11	がけを崩して複合施設を作るために、赤松小が犠牲になっているのではないか。大田区のために赤松小が長い時間工事で取られるのであれば、赤松小のために大田区が努力したことはあるのか。赤松には入れられないということで地域の保護者は混乱している、一方、清水窪小にも人数制限があっては入れないという状況である。	敷地が狭く校舎の改築を2分割で行わなければならないこと、鉄道近接施工などにより全体工期が長くなっています。赤松小改築に当たり、既存の擁壁更新が必要となり工事期間が長くなるところを複合施設を地下に取り込むことによって効率化を図っています。複合施設の併設によって工事期間が長くなっているということではありません。
その他	1	高齢者利用施設については、とりあえず作っておこうという印象である。具体的にどのような構想のもとに計画されているのか、それがなければどのような方針で具体的にどのような高齢者施設とすべきか、要望を聞く機会はあるのか。	高齢者利用施設は地域包括支援センター（地域高齢者の総合的な窓口）とシニアステーション（介護予防への対応）の2機能を予定しています。
	2	放課後ひろばはグラウンドを使える印象を受けるが屋内施設のみなのか。グラウンドを使えないのならば「ひろば」という名称はご考慮ください	現状についても学校内に設置している放課後広場はタイムシェアによりグラウンドを活用しています。体育館利用については開設してからになるがいずれにしても建物の中だけの活動にはなりません。